

●京都府交響プロジェクトの申請にあたって 様々な意見が出される

申請書の作成で一番苦労したこと三つ ①3 か年計画を計画の作成 ②地域課題に取組を結びつけた文章化 ③申請書類の作成と事業報告をまとめるの困難から協力を得られなかったこと。昨年地域公共プロジェクトの「N 塾」の講習会で NPO の特徴は実践したり行動することは得意だが事務処理が苦手だと指摘されました。その通りで、里山の会は 25 年の歩みを刻みましたが、この弱点は克服できていませんでした。これまで京都府のプロジェクトの助成金によって実績をあげられてきました。また、助成金頼りではだめですよとのお話は腹にしみわたりました。しかし思うようには克服できませんでした。里山の会の継続にとって、緊急の課題であります。先日(7 月 13 日)の事務局会議での発言を紹介させていただきます参考にしていただければ幸いです。

■助成金を当てにしなくてもやれるのではないかと■会員がどんどん減少してきている■22 年度分納入者 100 人に■事務所の使用料、当然使用料支払うべきで 20 数年間好意で使用している、1 万(60 万)、■農園の土地使用料無料 当然使用料を支払うべき広大な面積(田圃 19 枚) 我が物顔に使用、無料(20 万円)、■草内倉庫も無料 当然使用料支払うべきところを格別の理解協力をいただいている、(30 万円)、以下については 2021 年度に支出金額です■事務所経費(120 万)■作業支払い人件費 木津川調査(20 万円)、除草(10 万円)、集草と運搬(10 万円)、竹蛇籠(48 万円)会誌 52 号に掲載しています

●感想文を送っていただきましたので紹介させていただきます。

「やましろ里山の会の皆さんへ」 小林夢佳(小 4)

とても楽しかったです。特に心に残ったことは、火おこしするところです。コツをつかめば簡単でしたが、結局、周りの人が成功している中、私とゆいちゃんは、茶色い木の粉が出ても、どれだけけむりが出ても長い間苦戦したのに、火はつきませんでした。ですが、つかれたところでふと空を見上げると、とてもきれいな夕焼け空でした。雲はほんのり桃色にそまり、山はそこに生えている一本一本が光り輝いており、美しかったです。

その後、ウクレレ演奏会があって、夕方をゆったりすごさせていただきました。このたったの 1 日で、休むことなく「里山」を楽しませていただきました。

クワガタ、火おこし、ウクレレ、散策、アリの巣、トラップ。みなさんに 1 日でたくさん教わりました。また抽選に当たりたいです。「やましろ里山の会」では、どうもありがとうございました。

●令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 応募

親子花見乗船体験 活動内容と現在までの成果について

昭和 34 年に府営団地の共催が実現した。その後田辺町が京田辺市に代わり三つある天井川の一つ馬坂川の切り下げが行われその堤防に桜が植樹された。その後次々に増築され 26 棟 1100 世帯が住む京都府下最大の団地となった。そして植樹された桜並木の散策路となった。府営団地連合自治会の活動も徐々に充実して、桜並木と馬坂川の桜の季節を利用した取り組みはないものかと意見が出されていた。そのころ国交省の取り組みとして河川レンジャーが誕生し、水に親しむ活動として馬坂川にラバー式ダム。堰き止め装置を利用して、桜をめぐる取り組みをとの提案があった。

府営団地の自治会活動の充実がされてきていて、この呼びかけに賛同があり、近隣自治会や区、そして団地に近いスーパーや商店街組合に呼びかけて、商店街組合が呼びかけ団体となって実行委員会が結成され、故郷まつりを開催することができた。それまで 10 年間ほどは夏の花火大会がこの散策路を中心にして山城

地域の夏の風物詩の一つとして開催された。大勢の見物人が去った翌朝にはすごいごみが散乱してしまって大変なことで不評をかっていた。その後改善されたが、後始末は大変であった。景気の後退もあって花火大会が中止になって数年後、府営団地連合自治会の活動の充実が進み、新しい故郷まつりを実行しようとの機運が盛り上がり開催の運びとなった。河川レンジャーの活躍もあって、摂南大学のエコシビル部の学生の応援が実現して大人 10 人が乗船できる E ボートの借用が実現し、操船指導や水上安全対策なども行ってくれる協力があって、午前 10 時から午後 2 時半までに幼児も可能な親子花見乗船体験が実行できるようになった。多いときには 400 人以上の親子が来られました。その後、人気があつてまったく宣伝しないでも 200 人以上の参加があります。時にはうどんの提供や、子供たちが自主的に作る綿菓子、また集会所を展示場にして河川レンジャーが「木津川展」を開いて防災や木津川の説明展示などの取り組みを紹介するなど、充実したとりくみとなりました。

京都では保津川下りや宇治川の鵜飼以外では船に乗れる機会はないのです。地元の川でゆっくりとパドルを使って動かせる体験は保護者とともに協力しての作業は非常に有意義です。またライフジャケットの装着指導も水難事故防止の基礎訓練としても役立っています。木津川は元京都大学教授 高木公三郎先生による遊びカヌーの発祥の地ですので地元藤田カヌーさんからカヌーを借用してのカヌー体験は元気な子供たちにとって人気のあるイベントにもなっています。

また会場になっている馬坂川は一般的にごみが放棄される川になっていました。実行委員会のメンバーが中心になってごみ拾いを毎年行いました。自転車やバイク、タイヤに冷蔵庫、洗濯機などの家電製品や大型ごみが投げ込まれていましたが、回数を重ねるごとに大型ごみはなくなりました。近頃はペットボトルや空き缶それに買い物袋が中心になっていますが、きれいな川に生まれ変わって見たところ大変美しい川になっています。周辺地域の皆さんの中に、川をきれいにしようという雰囲気生まれて来ているのではないのでしょうか。

しかし予想もしていなかったコロナ感染防止のために三密が強調され、この 2 年間は開催できなくなりました。2022 年度 2 年ぶりに再開するには苦労がありました。関係官庁への手続きや調整、何よりも安全面の確保で、なくてはならないライフジャケットの調達などが大変でした。しかも参加呼びかけなどに力を入れられる準備ができませんでした。200 人以上の皆さんがおいでになり、満開の桜を川面から楽しんでいただくことができました。来年はコロナも収まり十分な取り組みを行い、地域にこんな楽しみがあったと記憶していただければと思います。 成果が次のように考えられます...

- 1 親と子が、又初めて顔を合わせた人が仲間となってボートを推進させる喜びを得られた
- 2 新住民と旧住民の交流が図られた
- 3 子どもが川で遊ぶのを見てごみを捨てなくなって、美しくなった
- 4 学生が献身的に世話を行ってくれて、地域の人々が元気をもらった
- 5 地域の課題の内排水問題の理解が深められた（天井川の役割・地域の歴史と特徴）
- 6 これから継続することによって一過性の取り組みから、地域に定着させ地域に根付かせる取り組みへの努力が必要である。桜並木がある限り継続させたいと思う

●里山農園草刈り実施 7 月 9 日

日中は気温が非常に高くなりますので、午前 7 時に集合して作業を行いました。暑い夏・作業はしたくなくなる夏ですが、朝早くからの作業を頑張ってください、大変有難うございました。作業をしていただいた篠原 大村 森島 播川 太田さん、ありがとうございました。



今年も開きます

夜の生き物調べ

7月16日

(土) 17:00~21:00

※予備日 7月23日(土)

集合	17時	開会あいさつ	注意	自己紹介
	18時	夕食食べ終わる	クワガタのお話	
	19時	スライド映写		
	19時	夜の観察開始		
	20時30分	集まった生き物の集約		
	21時	解散		

昨年:1万匹 1昨年2万匹を確認 今年は〇〇匹?

持ち物 弁当(夕食) 水筒 団扇 筆記具 消しゴム 懐中電灯
服装 長袖の上着 長ズボン 長靴 軍手 帽子



【募集方法】

人数 10組
親子で出席のこと
子どもだけではだめ
コロナ防止対策を
夕食は持参



メールで申し込み

fddb257@ybb.ne.jp

【記載内容】

住所 氏名 学年
保護者氏名 電話番号
メールアドレス



自然を大切にする仲間の輪を大きくする

主催 NPOやましろ里山の会

事務所 京都府京田辺市田辺深田 15 0774-64-4183

親子そろって

木津川で魚とりをしませんか

初心者大歓迎

7月31日(日).8月6日(土)

午前9時00分～12時00分

自然を大切にする仲間も輪を大きくする

主催 NPO やましろ 里山の会

指導講師 前国交省 淀川河川レンジャー

福井波恵 山村武正 その他河川愛好家多数

安心してお越しください

参加申し込み メール fddb257@ybb.ne.jp

記載内容 住所 氏名 年齢 保護者名 年齢 電話番号
子どものみの参加はできません 保護者同伴です

持ち物 帽子 水筒 しっかりした靴 タオル 着替え
たも網(魚とり用)

集合場所 京都府綴喜郡井手町玉水 玉水橋東詰め 下流広場 駐車可能
開催場所 同町玉水浜 中聖牛設置場

中止の場合は、電話で連絡する

受付オーバーの場合は メールで返信します



参加者募集

問い合わせ先 NPO やましろ里山の会事務所 京田辺市田辺深田 15 0774-64-4183